

研究結果報告書

明治時代の日・中外交政策－ベトナムにとっての教訓－

所属： ベトナム社会科学院 漢喃研究所
役職： 研究員
氏名： ホアン・フオン・マイ

1802年～1885年のベトナム阮朝と中国清朝との外交関係に関する研究に基づき、明治時代における日中外交関係（19世紀後期～20世紀前期）に関して調査を行った。調査を行った上で、明治時代における日中間の重要な出来事が明らかになった。同結果は以下の通りである。

明治時代において日中関係は交渉に基づき成立し、その時代の初期には日中両国が「日中修好条規」を締結した。

- 1871年に台湾に漂着した琉球島民54人が殺害された事件を契機に1874年に日本政府は台湾への出兵を行った。結局、日清両国の間に「中日北京専条」が締結され、清の政府は日本政府に賠償金として銀額50万両を渡した。
- 1879年に日本政府は琉球藩に軍隊を派遣して琉球の領有権を取り、琉球藩を廃止して沖縄県を設置した。
- 1894年から1895年にかけて朝鮮問題を契機に日中戦争が起こった。日本側はその戦争で勝利して、中国側から多額の賠償金や多くの利益を得た。

一方、1905年で起こった日露戦争により、日本は中国をはじめ地域内の他国から政治、経済に関する多くの利益を獲得した。

このように、中国とベトナムの関係など「冊封・朝貢」の関係である中国と他国の関係と異なり、明治時代における日中外交関係は平等の下に築かれた。また、当時の日中関係と、越中関係は政治背景、経済力、軍事力、世界と地域内の他国との関係など様々な要素により、日本と中国、中国とベトナムの関係について比較的な評価を出すのは難しいと言える。明治時代の対外政策により、中国をはじめ他国との外交関係において、日本が多くの利益を獲得したのは次の要素のおかげである。

- 多方面にわたる国家の全面的且つ徹底的な改革に取り組み、経済力や軍事力を引き続きで向上させていること。
- 多くの地域、国家との戦略的な関係を成立させ、強化したこと。
- 巧みな対外戦略と外交官の交渉術を組み合わせること。

日中関係と越中関係は類似点がない。また、当時、日本、中国、ベトナムの政策、主張は異なったが、明治時代の対外政策は注目・研究すべき点があると言えるだろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

中国の清朝への派遣におけるベトナム阮朝時代の使節と琉球(日本)の使節との交流に関する研究-ホアン・フオン・マイ - 2013年11月にタイグエンで開催された第5回ベトナムリンク国際シンポジウム-多分野対話を通じて (*Engaging with Vietnam Conference* -)の紀要、タイグエン大学出版社、2014年、p.151 - 158。

琉球(日本)と阮朝(ベトナム)の清朝への朝貢の貢物と規定の比較-ホアン・フオン・マイ - 2013年12月に漢喃研究所で開催されたハンノム(漢喃)学通知会議の紀要、科学社会出版社、H.2014, tr. 514 - 529。

明治時代に日中両政府間に締結された「中日修好条規」という条約について、-ホアン・フオン・マイ - 2014年12月に漢喃研究所で開催されたハンノム。漢喃学通知会議。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

明治時代における日中外交関係-ホアン・フオン・マイ - 東北アジア研究誌、2015年(投稿予定)。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)